

## 「第6次高松市総合計画（仮称）【素案】」のパブリック・コメント実施結果

本市では、平成27年7月1日から7月31日までの期間、「第6次高松市総合計画（仮称）【素案】」についてのパブリック・コメントを実施しました。いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方を以下のとおりまとめましたので、公表いたします。

1 意見総数 38件（14人）

2 いただいた御意見の要旨及びそれに対する本市の考え

※ 提出いただいた御意見は、趣旨を変えない範囲で、簡素化もしくは文言等の調整をしています。

※ 一人の御意見で複数項目ある場合は、項目ごとの回答としています。

内 容	御意見（要旨）	市の考え方
全体構成について	それぞれの町を現在こうとらえているということを第6次計画の後ろに説明があれば、どの点を重点的に取り組もうとしているかが分かると思う。つまり、残っている問題点が含まれているかどうかを具体的に質問がしやすいと思う。	今回お示しした総合計画等は、本市の今後のまちづくりにおいて、市政全般に係る政策や施策の基本的な方向を定めるものであり、具体的な施策や地域別の事業等については、今後、策定を予定している、総合計画の実施計画に当たる「まちづくり戦略計画」のほか、行政分野ごとに策定する各種分野別計画において、定めてまいりたいと存じます。
	人口減少と高齢化、加えて財政がひっ迫する中で、総合計画は、総花的と考える。市の良い点と弱点を見つめ、濃淡を明確にした計画が大切だと思う。 個別政策では、自助・共助社会の実現、公助では透明性	総合計画は、市政全般に係る政策や施策の基本的な方向を定めるものであり、人口減少対策に主眼を置いた7つの視点をまちづくりに当たった基本的な考え方として計画を策定してまいります。

	と公平性の確保をお願いしたい。	
総合計画の名称について	総合計画名称を「四国の地域創生センター高松」とすべきである。	総合計画の名称は現在検討中であり、御意見の内容も含めて今後、原案でお示しします。
本市を取り巻く環境について	歴史的背景に現高松中心部を形成した「野原」の名称を記載すべきである。	野原とは、高松城築城時の地域の名称であり、総合計画に直接関係するものではありませんので、記載しておりません。
	「世界の宝石と称される瀬戸内海が一望できるサンポート高松」とあるが、誰が世界の宝石と言ったのか？ 自我自賛・根拠がないなら訂正すべきで、また、サンポートからは全瀬戸内海は一望できないことから備讃瀬戸とすべき、話がオーバーである。	明治の教育学者、新渡戸 稲造が「瀬戸内海は世界の宝石」と書き記しており、青く穏やかな海と大小数千の島々が織りなす風光明媚な景観は、古くから多くの人々を魅了してきております。 瀬戸内海は、備讃瀬戸を中心として昭和9年に雲仙や霧島とともに我が国で最初に国立公園の一つとして指定されております。また、サンポートから望む瀬戸内海は、瀬戸内海国立公園の一部であり、その意味からも同記述としております。
	代表的な地場産業は漆器・家具とあるが、家具はそれほどでもなく、6大産地でもない。市として今後、育成したい産業ならば漆器と分けて語るべきである。	高松を中心にした香川の漆器・漆塗家具に携わる企業は約60社あり、家具も含めた産業の振興を図りたいと考えております。
総合計画の基本的考え方について	「若者から選ばれる町づくり」とは、大いに偏見に満ちており、「若者のみならず高齢者にも支持される街づくり」とすべきである。	御指摘の高齢者にかかわる内容は、総合計画の基本的考え方の中で「高齢者が健やかで心豊かに暮らせるまちづくり」として反映させてまいります。
まちづく	健やかにいきいきと暮らせるまちづくりのためには、関	健やかにいきいきと暮らせるまちづくりに取り組むために

りの目標について	係各課の連携強化を図るべきである。	も、関係各課はもとより、地域や関係機関、周辺自治体等との連携強化を図ってまいりたいと存じます。
	<p>「目標1 健やかにいきいきと暮らせるまち」「目標2 心豊かで未来を築く人を育むまち」について、目標2を目標1に置き換えできないか。目標2の「政策1 男女共同参画社会の形成」と「政策4 基本的人権を尊重する社会の確立」を統合できないか。</p> <p><u>理由</u></p> <p>人間の歴史は、人権拡大の歴史であると考え。市の施策は、市民の基本的人権の尊重を基盤にして進めることが基本と考える。目標2の政策1と4は、基本（根っこ）は同じ、総合的な施策による具現化と考えている。人権問題について市民の関心は低く、意見は多くないと思うが、市民の人権について、今後も意を注いでいただきたい。</p>	<p>まちづくりの目標の順番は、人口減少対策を念頭にストーリー性を持たせた順序で配置しております。</p> <p>目標1の「健やかにいきいきと暮らせるまち」には、子どもが生まれ育ち、高齢になっても暮らしやすいまちであるための政策・施策を配置しております。</p> <p>目標2の「心豊かで未来を築く人を育むまち」には、子育てとも密接に関連する人づくりのための「教育」や「人権」に係る政策・施策を配置しております。</p> <p>また、目標2の「政策1 男女共同参画社会の形成」は、人口減少対策として、女性の社会進出、ワークライフ・バランスが重要との観点から1番目に配置し、全ての人への普及を求める「基本的人権を尊重する社会の確立」をまちづくりの目標の基本として最後に配置してありまして、それぞれ重要な政策として独立して配置したいと考えております。</p>
	「訪れたい観光・MICEの振興」とあるが、本市、或いは香川県だけでは大都市圏の観光に太刀打ちできないことから、「それぞれ独自の文化育む四国の他都市間連携による大都市に負けない魅力的な観光誘致」と改めるべきである。	近隣自治体や香川県、また、四国の他都市との連携による観光振興に積極的に取り組んでまいることとしており、今回いただいた御意見につきましては、今後の観光振興に関する取組の参考とさせていただきます。
	「環瀬戸内海の中核都市としてふさわしいまち」とあるが、環瀬戸内海の定義は市としてどこからどこまでを指す	「環瀬戸内海圏の中核都市」とは、瀬戸内海を環状に取り囲む都市等との連携の中で、ひとつの核となりうる都市機能を備

	<p>のか？少なくとも人口や産業が本市よりも上回る広島、福山、松山、岡山、倉敷、神戸を上回る都市を目指すと思えてよろしいか？</p>	<p>えたまちという意味で記述しております。</p>
	<p>「多核連携型コンパクト・エコシティ」とはモノも言いようで、本市独自の誰が見ても矛盾をはらんだ言葉である。全国に笑われる二股行政。コンパクトなのか、旧市町多核化による街づくりなのか、はっきりすべき。安易に使うべき言葉では無い。</p>	<p>本格的な人口減少・超高齢社会が現実のものとなる中、30年後、50年後も活力を失わず、市民がいきいきと暮らせるコンパクトで持続可能なまちづくりを実現するため、平成25年2月に多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画を策定しました。</p> <p>この多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画では、中心市街地を含む広域交流拠点と16の地域・生活交流拠点の合計17か所を集約拠点と位置付けており、これらの集約拠点で、医療などの生活支援・子育て支援・教育環境の充実や美しい街並み景観の形成などにより都市機能を集積し、自動車に依存することなく、徒歩や自転車で、多種・多様なサービスが享受できるまちづくりを目指しております。</p> <p>また、鉄道を始めとする交通体系については、平成22年11月に策定した「高松市総合都市交通計画」や、25年9月に制定した「高松市公共交通利用促進条例」に基づき、過度の自動車依存から公共交通利用への転換に向けた取組を実施し、集約拠点間を結ぶ鉄道・バスを基軸とした、持続可能な公共交通体系の構築に努めることとしております。</p> <p>本市としては、これらを有機的に機能させることにより、30年後、50年後を見据えた、誰もが暮らしやすい多核連携型コンパクト・エコシティの実現に向けて取り組むたいと考えており</p>

		ます。
施策の大綱（政策の方針）について	「男女共同参画社会の形成」－「男女共同参画の推進」とあるが、政策を「すべての人が各自の持てる力をフルに発揮できる地域社会の構築（多様性の受容・ダイバーシティー）」とし、その中の一つとして「男女共同参画の推進」があるとした方が良いのではないか。	御提言の「すべての人が各自の持てる力をフルに発揮できる地域社会の構築（多様性の受容・ダイバーシティー）」は、人権尊重の都市づくりには、とても大切であると考えております。 一方、「男女共同参画社会の形成」は、人口減少対策として、女性の社会進出、ワークライフ・バランスが重要との観点から重要な政策の一つとして配置したいと考えております。
	「文化芸術施設の整備」とあるが、人口減・自主財源減の中、これ以上箱モノをつくる気なのか。「文化芸術活動の振興」と改めるべきである。	文化芸術施設の整備は、現存の各施設の改修、修繕を主とし、老朽化に伴う安全面の確保、また、市民の皆様にご利用料金等の御負担をいただくこともあり、より快適な施設を維持することを目指しております。
	P29 5-2 の表現では、全ての人のためと感じられず排除がある。車椅子で自走可能な環境整備を望む。また、新鉄道駅を設置する方が、バスの利便性向上につながるのではないか。バスのみにこだわらず、できる限り、シンプルな交通網を望む。JRの新鉄道駅も必要ではないか。（バスのみにこだわらず、新鉄道駅やLRT等も調査・検討中と記載されると排除は感じられない。）	本市においては、快適で人にやさしい公共交通体系の構築を目指し、平成22年度に策定した「総合都市交通計画」に掲げる具体の施策として、ノンステップバスの導入促進や公共交通施設の段差解消など、良好な交通環境の整備にも取り組んでいるところでございます。また、鉄道新駅の整備やLRT等の新交通システムにつきましても、ユニバーサルデザインの観点から、検討してまいります。
	歩行者空間の整備とあるが、本市の特徴から「歩行者および自転車利用者の空間整備」とすべきである。	中心市街地の活性化のためには、人々の回遊性を高めることが重要であると存じております。 人々の回遊性には、歩行者空間の整備を始め、魅力的な空間や情報発信など、様々な取組が必要なことから、記載方法を検討してまいります。

	<p>全ての施策においてコミュニティの再生は重要な要素である。現在の自治会加入率及び各コミュニティの格差をいかに対応するかが課題であるが、総合計画においては、明確な表現になっていないのは再考を要する。</p>	<p>「コミュニティの再生」は重要な要素であり、自治会加入率の低下や地域コミュニティ間の格差の解消等については、重要な課題と認識しておりますので、より有効な対応が図れるような計画としてまいります。</p>
	<p>総合計画における各施策の成否については、行政の信頼回復が何よりも大切である。大西市長のマニフェスト2015と総合計画の内容は、ほぼ一致しているが、コンプライアンス体制の整備については、総合計画では述べていないのはなぜか。</p> <p>「職員力」の表現だけでは不明解である。組織の企業風土の改革と市職員の意識改革の決意を市民に意志表示することが大切である。もっと市民に対して市における取組の見える化を図るべきである。本当の市民サービスは何かを考えることが求められる。トップダウンではなく、ボトムアップで改善を進めるべきである。</p>	<p>「職員力の向上」という施策の中に、コンプライアンスの推進についても併せて盛り込んでおりましたが、市民との信頼回復に向けた最重要課題であることから、いただいた御意見を参考にして、「コンプライアンスの推進」を前面に打ち出すよう検討してまいります。</p>
	<p>「5 総合計画の対象区域」では、「必要に応じて市域外についても含める」となっており、「8 人口の推移」では、「本市及び近隣7市町では人口規模が縮小しており、相互に役割分担し連携・協力していくことが求められる」となっていますが、施策の中にそれにかかわるものが見られない。</p> <p>県内の43%の人口を有し県都であり四国の中心とも</p>	<p>御指摘の連携につきましては、まちづくりの目標6に「連携の推進」として、一つ施策を設けております</p> <p>更に、近隣市町との連携につきましては、今年度「連携中枢都市圏ビジョン」を取りまとめることとしており、市町をまたぐ広域的な公共交通利用促進施策についても協議、検討するなど、連携事業を充実してまいりたいと存じます。</p>

	<p>言える都市で、また昼間は周辺市町から多くの人口が流入し仕事・学業・商業等での集客力が強い高松市の総合計画の中に、圏域を担っていくことがうたわれていないのは違和感を覚える。高松市の総合計画と言えども、ぜひその点について施策展開をお願いしたい。</p> <p>また、抜粋して記載されている「施策名：(521)公共交通の利便性の向上」で「市内全域を対象にした公共交通体系の再編」とあるが、周辺市町も巻き込んだ検討もお願いしたい。</p>	
<p>その他、 具体的事業等について</p>	<p>小中一貫校を増やし、福岡市に見られるような小中学校+公民館+児童保育施設を増やすべきである。</p>	<p>本市では平成22年度から高松第一学園において、施設一体型の小中一貫教育に取り組んでおり、その成果を、広く県内外に発信しています。この実践研究により得られた成果を、可能な限り他の小・中学校の教育活動に反映させるため、24年度から小中連携教育推進校を毎年、新たに指定してきたところです。</p> <p>27年度で市内全小・中学校の指定を終えたことから、現在、どの小・中学校においても、子どもや教職員同士の交流を図るとともに、小中連携教育を積極的に推進しております。小中一貫教育については、今後、本市における小中一貫・連携教育の成果と課題を踏まえ、国の動向も勘案しながら研究してまいりたいと存じます。</p> <p>なお、御提言の小中学校と公民館、児童保育が一体となった施設の設置の考えはございません。</p>

<p>中央商店街との連携促進とあるが、商店街に限らず市内各地との連携と明記すべきである。</p>	<p>「文化芸術活動の推進」における美術館事業や文化芸術事業の連携については、中央商店街に限らないことから中央商店街等と改めるものとします。</p>
<p>生涯学習について、もっと積極的に取り組むべきである。(まなび館のマンネリ化)</p>	<p>従来、生涯学習についての取組は、趣味・教養についての学習活動自体に重きを置いていましたが、市民一人一人が、社会において重要な役割を担う一員として活躍できるよう、「学ぶ」という観点から、生涯学習を捉えることが必要になってきています。</p> <p>合わせて、あらゆる市民の社会参画が重要となっている今日、職業生活で得た知識・経験や、現代的課題等について新たに学習した成果（「学び」の成果）を、地域社会において様々な形で「活かす」活動も、生涯学習と言えます。</p> <p>今後、「学ぶ」だけでなく、学んだ成果を「活かす」ことにより、地域社会への還元を図ることにも力点を置きながら、今後、より一層、積極的に生涯学習に取り組んでまいります。</p>
<p>図書館・資料館・菊池寛・美術館「高松・塩江」を統合し一施設とすべきである。</p>	<p>文化活動等の拠点性が高いこれらの施設については、ファシリティマネジメントの推進の中で、再配置や長寿命化対策等について適切に検討し、対応する予定です。</p>
<p>美術館、図書館、市民活動センター、まなび館、歴史資料館がそれぞれ所期の目的を果たすように、点検、整備、充実を図り、活性化を実施してもらいたい。</p>	<p>各施設が、関係する法律や設置条例等に規定された目的を達成するよう、施設の適切な管理・運営に努めるとともに、効果的に事業を実施し、活性化を推進してまいりたいと存じます。</p> <p>また、ファシリティマネジメントの推進の中で、各施設のあり方や長寿命化対策等について適切に検討・対応し、活性化を</p>



		<p>図っていくよう努めてまいります。</p>
	<p>防災センターをもっとうまく防災力アップのために活用されたい。(防災センターの内容充実化、学校、地域の防災力アップのために活用)</p>	<p>市民防災センター1階に展示している情報につきましては、公表されている香川県地震・津波被害想定や高松市防災マップと整合性を図るよう検討してまいります。また、現在、館内の学習室や研修室を活用し、防災教室や普通救命講習などのイベントを実施していますが、今後、内容を更に充実し、地域防災力の向上に努めてまいります。</p>
	<p>水道記念館については、創造都市の面、教育面、文化面において、市が主体的に取り組むべきである。</p>	<p>高松市水道資料館は竣工から100年近くが経過し、基礎部分のひび割れや柱の腐食など老朽化が著しいほか、地震に対する強度も不足しており、どのような方法で保存と活用を行っていくかが課題となっています。</p> <p>一方で、小学生の校外学習など、本市の水道の歴史を学ぶ場として活用されているほか、近年は婚礼の前写しスポットとしても人気を博しています。</p> <p>このため、平成26年度に、学識経験者等で構成する「高松市水道資料館保存活用計画策定委員会」の御意見を頂きながら、「高松市水道資料館保存活用計画」を策定しました。</p> <p>今後は、同計画に基づき、現状の外観を可能な限り維持しながら、必要に応じて竣工時の姿への復元や室内の改装を行い、文化財や水道施設として歴史を学ぶ場のみならず、地域に親しまれ、市民が気軽に集い、立ち寄りたくなる身近な施設として存続していくこととしています。</p>
	<p>情報発信、情報収集、情報伝達の充実を図る。(広報の</p>	<p>情報の発信・収集・伝達など、広報活動の充実等につきまして</p>

見直しと充足)	は、総合計画の中で検討してまいります。
<p>結婚したくても、相手が見つからない。紹介する方がいない。手を差しのべる方が余り見られない。金銭を目的にやられている方はいるようだ。しかし、そういう方も僅かになった。今回、下記の要領で、組織を立ち上げてみてはどうか。</p> <p>少子化の対策 出会いの紹介 → お見合い → 結婚 → 子ども誕生 → 人口増</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 男女紹介のできるボランティア活動に従事できる人（紹介者）を募る。（広報紙・インターネット等その他で）</li> <li>2. ネットワーク作りをする。</li> <li>3. 30～100人程度集まれば、仮称〇〇〇会を組織する。</li> <li>4. 紹介者全員を、一括して、市作成のホームページに紹介する。結婚を希望する方の釣り書きを募集する。</li> <li>5. 月に1～2回、定期的に市役所の会議室に集い情報交換する。（旅費程度は市が負担）</li> <li>6. カップルが誕生出来るよう温かい支援活動をする。</li> <li>7. 支援が成立すれば、組織へ募金をして頂く。</li> <li>8. 成果をあげた方には、「市長感謝状」を贈る。</li> </ol>	<p>例えば結婚に対する意識や認識を変えてもらうためのハンドブックの作成や、或いは講演会を行うなど、個人の意識や考え方もあると思いますが、少しでも早めに結婚し、第2子第3子とつながるよう、本市としてもいろいろな形で応援しております。</p> <p>行政ができることは限られていますが、御提言の内容も検討する中で、各種の少子化対策のうち、人口減少を抑制していかなければならないと考えております。</p>
宮脇町二丁目姥ヶ池地区は、他所にはない施設（大規模墓地、古墳、神社など）という財産があるが、流入してくる人はあまり多くない。峰山を含め、中心部に最も近い自	近年の都市化や核家族化の進展などにより、地域の連帯感やふれあいが薄れつつある中で、多様化する地域課題を地域の人たちが自らの問題として捉え、解決に向けて積極的に取り組む

	<p>然が残る地区の魅力を発信して、地区外からの人の呼び込みを図って、市民病院移転後においても空洞化、過疎化しないよう“花と緑が溢れるまち”づくりを地区住民の手で行うべく計画を練って進めている。</p> <p>具体的に</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県外住居者高齢化に伴う代行墓参や清掃等管理</li> <li>2. 古墳、峰山地区のウォーキングコースの整備（モデルとして飯野山のコース整備が挙げられる）</li> <li>3. 高齢者へのホームサービス（家具の固定化、地震対策、大型不用品の搬出など）</li> </ol>	<p>“地域みずからのまちづくり”が求められていますので、引き続き、地域コミュニティへの各種支援を充実してまいりたいと存じます。</p>
	<p>オリーブは県の主要産物の一つだが、全国的には、小豆島のものというイメージが定着している。しかし、国分寺町、鬼無町を始め、高松市のオリーブ栽培は、小豆島地区に次ぐ実績と技術があると思う。（数年前までは育苗、苗木の出荷が主で、近年になって加工品が加わっている。）</p> <p>そこで「高松のオリーブ※」ブランドを植え付け、定着させることが高松市の魅力向上につながると思う。市内全域で空地を活用し、オリーブ栽培を奨励し増やすことで、いわゆる“選択と集中”が図られる一材料と思う。 ※高松のオリーブブランドは、魅力あるものを考案する。（公募も含め）</p>	<p>オリーブ（食用）については、出荷先の確保が必要という課題がありますが、近年、耕作放棄地を活用して新規栽培を行っている実績もあります。</p> <p>また、香川県では、食用オリーブ栽培の推進にあたって補助制度を設けており、本市でもこの制度を活用するなど、香川県と連携して支援してまいります。</p>
	<p>「盆栽」を「地場産業」のみで取り上げるのではなく、「文化・芸術」及び「観光資源」としても取り上げる。</p>	<p>盆栽については、「農業」として振興してだけでなく、「地域産業」、「観光資源」、「文化芸術」の視点での活用も重要であ</p>

<p><u>理由</u></p> <p>1. 文化・芸術としての盆栽</p> <p>白砂青松の地である本市では、200年程前から、採取した黒松を鉢植えとして販売し、時とともに日本の自然、精神を凝縮する盆栽として昇華させてきた。今日、欧米、アジア等で、盆栽を愛好することが日本を上回るほどになっている理由はここにある。</p> <p>一方、外国人愛好者等の購入により、本市においても極めて芸術性の高い盆栽が国外に多数流出していることから、市としては、美術館が芸術作品を購入するのと同じく、本市の盆栽の内、極めて芸術性の高い盆栽を購入、管理するとともに、常時展示して、広く世界に本市の盆栽の持つ文化・芸術の素晴らしさを発信する必要がある。</p> <p>なお、小品盆栽を始めたのは、旧高松藩12代当主松平頼寿伯爵であり、本市から小品盆栽が全国的に広がった文化・芸術的意義もまた大きい。(本市は、松平伯を顕彰すべきであると考える。)</p> <p>2. 観光資源としての盆栽</p> <p>全国に盆栽の生産・販売地は、主に3か所あり、愛好者はこれらの地を訪問している。本市においても、郊外に点々とある盆栽園を1園ずつ回る中四国・近畿からの愛好者は多い。また、鬼無盆栽植木祭り等に全国から大</p>	<p>ると考えます。</p> <p>各分野において活用を図るため、当部局間での協議等を進めてまいりたいと存じます。</p>
---	---

勢の愛好家が来訪している。

しかし、盆栽園は、市郊外に点々としており、見学には時間がかかるとともに、年に1、2回のイベントでは、来訪者数は、まだ十分とは言えない。

したがって、市のほぼ中心部に極めて芸術性の高い盆栽が一堂にそろい、それらが素晴らしい庭園や古い趣のある建物（例えば、玉藻公園の披雲閣、その横の広場等）で常時展示され、（さながら松平伯が見たように）見学できるようにするとともに、展示場の近く（もちろん園外でも良い。）に盆栽作成体験場、即売場、普及啓発・情報発信場等の施設が整備されれば、大きなインパクトとなり、国内外からの一般観光客の来訪も大きく増加すると考える。

付け加えるなら、本市をふるさととする日本一の黒松盆栽「不動」が併せて常時展示されれば、その効果は更に大きくなると考える。

### 3. 地場産業としての盆栽

盆栽は、本計画の中では、地場産業の一つとして取り上げられている。地場産業としての盆栽は、全国でもユニークであり、本市の経済に大きく貢献してきたが、先細りしていくとみる人もいる。

しかし、近年、前述の欧米、アジア等の愛好者の著しい増加により、盆栽需要も大きくなりつつある。また、

	<p>若い男女を始め、今までの愛好者とは違う人々が、家の中で小さな緑の盆栽をこだわり無く楽しみだしている。さらに、山野草を取り入れた盆栽が女性を中心に広がってきている。先行きは決して暗くはないが、盆栽趣味の根幹をなす本来の愛好者を増やすことは、今後とも極めて重要と考える。</p> <p>盆栽は、全国でも生産、販売がさいたま市近辺、名古屋市近辺、本市近辺に限られており、地域間競争が熾烈である。これを勝ち抜くには、漆器が旧県文化会館等を、庵治石が石の民俗博物館、ストーンミュージアム、イサム・ノグチ庭園美術館等の振興のための拠点施設を有するように、盆栽も拠点施設を有することがぜひ必要だと考える。</p>	
	<p>丸亀町商店街は、猫のボランティア（NPO法人BONにゃん）をバックアップし、丸亀町商店街で2年前から猫の譲渡会（新生銀行前）を始め、「猫の譲渡」「野良猫の保護の相談」「猫の飼い方」を行っている。</p> <p>また、本年7月1日に、町営駐車場丸い亀さん1Fにその活動のための拠点を「BONにゃんHOUSE」として提供しオープン、沢山のTV、新聞のニュースになった。現在も取材中のメディアがあり、これからも報道されると思う。</p> <p>この活動を商店街として始めたのは、香川県と高松市が</p>	<p>動物愛護の推進と殺処分の減少については、動物愛護センターの整備とともに、総合計画に盛り込んでまいりたいと存じます。</p>

	<p>「犬の殺処分率日本一」「猫の殺処分ワースト」の悪評に耐えられなかったことによる。ボランティア活動を知るにつれ、その熱意にますます感銘を受けている。ボランティアは、仕事が終わった後の夜間・土日に保護活動に励み、労力も大変だが、猫の避妊、健康診断、治療などに多額の出費を自前でしている。</p> <p>第6次高松市総合計画（仮称）には、動物愛護、殺処分に関する項目がなく、これから8年間、高松市にわずかな予算と熱意があれば、殺処分ゼロも夢ではない。ぜひ、この項目を加えていただきたく、具申する。「動物愛護センター」の案が県・市にあるが、なかなか実現できないと思う。その費用、時間、手間の一部をかけていただければ、成果は必ず上がると思う。</p>	
	<p>コンパクト・エコシティや街の景観にも影響を及ぼす住居環境としてのマンションについて特化した施策を積極的に行い、マンション管理や防災対応、コミュニティ形成促進等を支援し、良好な都市環境の維持に努める体制を整備して欲しい。</p> <p>マンション管理については、管理業務の多くを管理会社に委託をしているものの、管理の主体は、素人の集団である、区分所有者全員で構成される管理組合であり、あらゆる面において、公正な立場からの多くの支援を必要としている。</p>	<p>本市には、現在、マンション管理に関する所管部署はなく、また、現在のところ、その体制を整備する考えはございません。</p> <p>なお、御提案の業務につきましては、一部、地方公共団体の一つである香川県で所管しているほか、本市におきましても、マンション単位等での自主防災組織の結成について推進しております。</p> <p>また、マンション単位で訓練指導を希望する場合は、所轄消防署において対応しております。</p>

	<p>一方、平成 12 年の「マンションの管理の適正化の推進に関する法律」第 5 条で国及び地方公共団体の役割が規定されているが、マンションが急増しつつあるにもかかわらず、高松市においては、管理組合への情報発信はほとんどない状況である。マンション管理についての担当部署すらよく分からないのが実情である。</p> <p>マンションについては、比較的立地の良い場所に建設されること、長期的な維持管理が不可欠であること、区分所有という特殊な所有形態であること、何をするにも合意形成が必要であること、そのため、適正な維持管理が行われないとマンションのスラム化、都市景観や都市防災・防犯への悪影響、住民同士や近隣住民等とのトラブル発生の懸念があり、問題発生後の解決には、困難が予想される。</p> <p>したがって、単なる私有財産とは別次元の認識と対応が必要であると考え、多くのマンション管理先進地域では、早い時期から行政が積極的にかかわってきたようである。</p> <p>下記のとおり、第 6 次高松市総合計画（仮称）策定を機に体制整備を希望する。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. マンション管理について、担当部署、相談窓口等の明確化、情報発信</li><li>2. 高松市内のマンションの実態把握（現状分析、調査実施、問題把握、今後の展望等）</li><li>3. マンション単位の自主防災組織の設置及び防災訓練</li></ol>	
--	--	--



	<p>等についての情報発信、支援</p> <p>4. セミナーの開催</p> <p>(1) (公財) マンション管理センターとの共催セミナー</p> <p>(2) マンション居住者へ区分所有の責務、維持管理情報、コミュニティ形成等</p> <p>(3) マンション購入予定者に対する区分所有者の責務、管理の重要性啓発等</p> <p>5. マンション管理に関する相談会の開催 (管理組合役員等を対象とした、弁護士、建築士、マンション管理士等、専門家による個別相談会)</p> <p>6. マンション管理組合連合会等の設立及び活動への支援 (管理組合同士の情報交換・交流等を目的とした団体等 (NPO等) の支援)</p>	
	<p>地球温暖化対策を積極的に進めて欲しい。(国内で生み出している異常な気温をいつまで続けるのか。赤道に近い国の方が涼しいのはおかしい。)</p>	<p>地球温暖化対策は、人類が解決しなければならない喫緊の共通課題であり、本市は、平成 23 年 2 月に「高松市地球温暖化対策実行計画」を策定し、太陽エネルギーの利用促進など、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでまいりました。</p> <p>一方、国は、平成 27 年 6 月に「2030 年までに温室効果ガス排出量を 2013 年と比べて 26%削減する」とした新たな目標を表明し、本年末に開催される国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議 (COP21) での合意を踏まえ、できるだけ速やかに地球温暖化対策計画を策定することとしています。</p>

		本市においても、今後、国の動向等を注視し、必要に応じ、地球温暖化対策実行計画の見直しを行うとともに、引き続き、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでまいりたいと存じます。
子育てしやすい環境を考えてくださり有難く思うが、子どもが外で遊べる場所が減少している点は気になる。以前は、公園ではなくどこでも遊べ、遊びを自ら創っていた。そんな点を子育て環境の視点に取り入れられないだろうか。遊びながら学んだことは子の成長に欠かせないものである。		第6次の総合計画においては、子どもを生き育てやすいまちづくりを基本的な考え方の一つとしており、未来を担う子どもの成長や子育てを社会全体で支援していくために、子どもが遊びやすい環境の整備を地域全体で取り組むなど、コミュニティを軸としたまちづくりの展開を目指してまいりたいと存じます。
コンパクトなまち・人口が減少する中、撤去建物等の処理施設も準備する必要があるのではないかと。どこか良い場所を考えているのか。		公共施設の除却に伴う廃棄物排出量の減量化は、重要な課題であり、この観点から、施設の長寿命化は、建替え等による建設廃棄物の抑制、省エネルギー対策の実施などにより、環境負荷低減等に効果があるものと考えています。御提言のような、新たな処理施設を設けることは困難と存じますが、施設長寿命化や計画的な除却により、建築廃棄物の減量化に努めてまいりたいと存じます。
子育て家庭への支援について、第5次の計画で、少しずつ状況は、良くなってきているように思うが、まだまだ。少子化の歯止めにはつながっていないと思う。 共働き家庭が多い中、働く家庭として、安心して産み育てていけるかが重要ポイントだと思う。 具体的な問題として、		まず、年度途中に入所しにくい状況については、民間の既存施設の定員増を始め、認定こども園への移行や創設などにより、平成29年度末までに、年度を通じて待機児童を解消することとしており、その後の入所状況によっては、育休中の取扱いも検討していきたいと存じます。 次に、病児保育や一時預かりなどの特別保育事業については、

	<p>1. 仕事を始める月(特に年度途中)に、入所しにくい状況であること。</p> <p>2. 1年以上の育休であれば、下の子どもが1歳になった月末に、年長児以外は退園しなくてはならないこと。</p> <p>3. 3年、2年保育が当たり前になってきた今の時代、年少・年中で、退園は、子どもたちにも、負担。企業側が安心して子育てができるようにと、育休を、1年以上とれる職場も増えている中、退園などがあると、安心して子育てできない。第2子以降を躊躇してしまう。</p> <p>4. 病児保育をもっと増やしてほしい。</p> <p>5. 一時保育利用に当たって、保育料と同じような、第2子以降の減額等は、無理なのか?継続利用だとかなりの負担になる。</p> <p>第5次総合計画では、経済的な面でとても変わってきたと思うが、働きながら、子どもを育てるという点で環境を整えていただきたいと思う。</p>	<p>利用ニーズが高い事業なので、保育士の確保や施設運営費の充実により、供給体制の確保に努めたいと存じます。</p> <p>なお、一時預かりの利用料軽減については、保育所などに入所する多子世帯の保育料等の減免拡充を優先的に行うこととしておりますので、財源的に困難な状況でございます。</p>
	<p>小学生の子どもの学童について、お願いがある。</p> <p>就職先を探していた際、面接時に、子どもの夏休みや冬・春休みについて聞かれ、返事に困ってしまった。仕事が決まらなると学童にも申し込めないと一時は、諦めていた。</p>	<p>放課後児童クラブについては、年度途中で退会児童が出た場合は、待機児童の中から途中入会も行っていますが、基本的には低学年の児童優先であることから、途中退会者が少なく待機児童が発生している校区もあります。</p> <p>本市においては、「高松市子ども・子育て支援推進計画」に基</p>

<p>今年の7月に就職試験に受かり、夏休みの2日前から仕事に行くことになったが、仏生山小学校の学童は、新1年生が優先で、その他の学年は途中からだと言われてもらえないようで、また、私立保育園にも学童があるが、新規で預かる余裕がないと断られたため、子どもは、朝の7時半から13時半ごろまで家で鍵を閉めて留守番をさせるしかない現実である。</p> <p>働きたい母親はたくさんいると思うので、もう少し、子どもたちを預かってもらえる場所、母親が安心して働けるように考えてほしい。</p>	<p>づき、順次、教室数を増やすなどして平成31年度中の待機児童解消に向けて整備を進めており、今後とも子育てと仕事の両立支援を行ってまいりたいと存じます。</p>
---	---